

31年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成31年 1月1日～ 31年1月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 8.3	△ 25.0	△ 16.7
	マツ	△ 7.1	△ 28.6	△ 28.6
	広葉樹	△ 18.8	△ 25.0	△ 12.5
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 10.0	△ 20.0	△ 20.0
	マツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 21.4	△ 21.4	△ 7.1
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 20.0	△ 30.0	△ 20.0
	マツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 35.7	△ 35.7	△ 28.6

・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹のチップ用国産原木の入荷、消費、在庫とも3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	31/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・チップ用国産原木の購入価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・マツの仕入動向は横ばいだが、主にカラマツであってトドマツの入荷がない状態（北海道）。
・スギ・ヒノキ及びマツ類はバイオマス燃料への流出が継続。広葉樹は森林再生事業材の入荷により増加。在庫はスギ0.5→0.5カ月、マツ0.3→1.0カ月、広葉樹2.5→2.5カ月（東北）。
・針葉樹の入荷・消費が多く、広葉樹の入荷、消費減少が続く。在庫も同様の状況（中国）。
・当月は積雪の心配もなくスギ・ヒノキの仕入、消費、在庫横ばい。翌月、翌々月は積雪の影響が予想されやや減少を予想。在庫も同様の動き（四国）。
・全樹種とも順調な入荷が予想される。間伐材等は十分だが製紙用に回す一般材の入手が大変だ。針葉樹・広葉樹とも計画通りの生産となり、製紙用針葉樹は増産依頼が来ているが、原木のある限りで消費対応。仕入、消費ともに計画数量で来ているので在庫に変動はない（九州）。
・スギ・ヒノキ、マツ原木の仕入は基本的になし。広葉樹原木の仕入が困難な状態が続いており、消費・在庫とも少ない（九州）。

(原木価格)

・前月同様にスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい（東北）。
・原木購入価格に変動なし。横ばい（中国）。
・今のところしばらくは変化なし。横ばい（九州）。
・広葉樹は横ばいに推移（九州）。

31年1月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		31/1月	2月	3月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 10.0	△ 20.0	△ 20.0
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 21.4	△ 21.4	△ 7.1
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 10.0	△ 20.0	△ 20.0
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 21.4	△ 21.4	△ 7.1
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	マツ類	△ 30.0	△ 30.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹の木材チップの生産、出荷、在庫動向は3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	31/1月	2月	3月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・出荷動向はスギ・ヒノキ、マツ類は前月同様の横ばい。広葉樹は入荷量増加によりやや増加（東北）。
- ・入荷状況に伴い生産、出荷動向も製紙用チップの減少が続く（中国）。
- ・製紙、ボード、燃料用とも制限なく受入れ可能だが、仕入動向と同じくスギ・ヒノキの生産、出荷、在庫とも当月横ばい、翌月、翌々月はやや減少見通し（四国）。
- ・製紙用は特に針葉樹に増産依頼が来ているが、一般材丸太の入荷がある限りの出荷となっている。広葉樹、燃料用はほぼ計画通りフル生産の状態。チップ在庫は持っていない（九州）。

(木材チップ価格)

- ・出荷価格変動なし。横ばい（中国）。
- ・変化なし。横ばい（九州）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいで推移（九州）。
- ・広葉樹原木の確保が困難な状態が続いており、生産・出荷・在庫の少ない状態が続いている（九州）。